信里だより

令和４年度
第４号

令和５年３月１日発行
<発行者>
信里地域委員会 調査提言部会

合同庁舎の窓から

信里だより令和４年度最終号を発行します。一年間調査提言部会員として合同庁舎にて月一回会議をしました。写真は合同庁舎二階会議室の窓から見える景色を撮った写真です。今回は信里各地域の部会員の皆さんや区長の皆さんに記事をお願いしました。

西側の窓から

東側の窓から

それぞれの地域で感じていることや、行事、地域の特徴を自由に執筆していただきました。また、一年間記事を提供してくださった方々に御礼申し上げます。令和４年度信里だよりをご覧いただきありがとうございました。

調査提言部会　部会長　島田 喜志子

有旅第一

有旅地域の長い歴史のシンボルであり先人たちの活躍の面影を今に伝える「有旅高札場」平成１６年２月、長野市指定有形文化財の指定を受ける。江戸時代に松代藩からのお触れの掲示板として設置、明治以後は地域の文化財として有旅のシンボル的建造物。

「高札板の内容」.

（１）キリシタンの禁止、邪宗の禁止

（２）五倫の道を守る。殺人、放火、泥棒をしてはいけない。

まさに昔のことと今に通ずるものがあると思います。

又、有旅の遺跡と遺構があります。それは有旅の将軍塚です。円墳の大きさ、径７．６ｍ、高さ４．５ｍの石混合積である。横穴は南に口があり、両側を石で積み上げ天井には平たい大きな石が４枚かぶさっている。「天保元年（１８３０年）この穴からさびた冑、折れた太刀、矢の根を見つけた」とし、先年村のものが曲玉、管玉を見つけたとの事です。これらは一部ですので、これからも歴史に関心を持ち発信出来たらと強く思います。

内山希實子

有旅第二

どんど焼き　１月８日に、どんど焼きが行われました。厄介なウイルスの感染対策のため中止となる行事が多い中、唯一行われているどんど焼き。かつては、育成会が主催で大勢の子どもたちが準備をしていましたが、子どもが少なくなり、現在は区長さんたちが中心となり行っています。参加人数も減少し、子どもの賑やかな声も聞こえなくなり、なんだか寂しいどんど焼きに。。。

近年、社会問題となっている少子高齢化の波は、確実に当地区へも押し寄せていますが、地域を支える高齢者の皆さんはとても元気です。地域の将来を考えると不安な気持ちもありますが、人と人とのつながりを大切にして、田舎の良さを感じながらいきいきと暮らせる地域づくりができたらと思います。

大西由美

上有旅

我が家の近間に大きな有旅大池があります。北側堤に接しては、立派な社の篠井神社が祀られています。大池と名の付く池は全国に数えきれないほどありますが、有旅大池は長野市で10指に入る位の大きさなので、大池の名に当たっていると思います。岸回りはほぼすべてコンクリート護岸されていて、どこからも見通し出来ます。神社、外周道路、取り付け道路等、景観もよく農業用水利以外でもランニング、ウオーキング等々親しまれています。一昨年、昨年は長野市消防局の大型ゴムボートの訓練が行われました。

今年の元日は天気も良く寒くもなく、穏やかな綺麗な初日の出を池越しに仰ぐことが出来ました。自然と両手を合わせ平穏をお祈りしました。

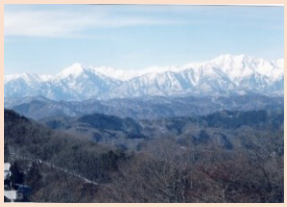
内山美代子

犬石区
「伝統文化を伝えていきたい」

犬石は、標高６２０ｍくらいの高台にあり、東側は善光寺平が一望でき、南側は塩崎・千曲市方面が一望できる。
いつ見ても見飽きることのない風景だ。
犬石の名「犬石」集落を守る犬の化身、犬のように見える大岩
薬師堂、雨乞いの地蔵、目の神様、7月31日に行われる「虫送り」害虫駆除豊作祈願
人口の減少、年々集まる人も少なく残念だ。
伝統ある貴重な行事、長く受け継ぐようにして行けたらと思う。

神農智子

十二区
信里「十二」に暮らしてみれば



「十二」という村名の謂れは知らないけれど（大昔、十二軒しかなかったのかと思った）
四十年前、夫に家に招かれて、夜道を車で、行けども行けども曲がりくねった道を上り切ったと思ったら下り坂。その先が、それから住むこととなる「十二」であった。
あの頃はこの地区も三十軒、百人前後の人数を保っていた。小さい子供達も我が家の孫を入れて五人程。村の中は静かなものだ。それでも数年前からこの地区にも三世帯六人の方々が移住されてこられ嬉しい限りですが、このご時世中々集まっての交流が出来ずに残念。農業をする人も私達世代で終わりか・・なんて悲観ばかりはしていられない。空気も良く、景色も良く（北アルプスが一望）人柄も良く、住むには良いところだと思って暮らしている。村の人たちと互いに助け合って健康で暮らせればそれで「佳し」というものだ。

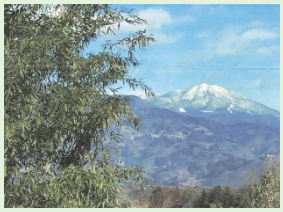
牛沢清子

青池区

青池区は茶臼山山頂となりに位置し信里ではほぼお山のてっぺんにあります。小学校、保育園、篠ノ井支所出張所、JAグリーン信里支所の入る合同庁舎等が集まっている地域です。
山頂付近から見える景色は東方に長野市街地と遠くには菅平高原、天気の良い日には浅間山を望むことができます。西方には北アルプスが美しく見ることができます。
青池ほぼ中央に位置する赤い屋根（写真）は元禄９年（1696年）に建立された曹洞宗　玄峯院末派「佛門山　法輪寺」です。
青池も４２戸の家がありますが、少子高齢化が進み、現在小学生が一人しかいません。この先も子供が増える話は聞こえてこないところです。新しいニュースもあります。長野市初のワイナリーの建設が始まろうとしています。このことをきっかけに青池だけでなく信里全体が活気のある地域に発展していくことを願っています。

島田喜志子

笹鍋区
新築報告



笹鍋に三角屋根の家を建てました。工事開始から笹鍋地区の皆様に見守っていただきました。
普段生活している場所と異なり、ここ笹鍋の土地からは写真のように飯縄山がはっきりと見えます。雪を被った飯縄は一段と綺麗です。春には一帯に梅や桜が咲き、年間を通して鳥の声が聞こえる信里の四季を身近に感じています。
冬には厳しい雪や寒さもありますが、信里に豊かな自然が残されているのは地域の皆様の日々の活動のたまものと思います。
これからもお世話になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

笠井將嗣　笠井清美

山布施区

人口減少率が信里で一番大きい山布施から紹介するのは、移住して3年目に入る山脇さんご一家です。山脇さんは、奥様と共にＩＴ関係の仕事をテレワークで行っています。仕事の合間には、畑で季節ごとに野菜を育て、たくあん漬けや野沢菜漬け、そして昨年は味噌作りにも挑戦！自分で育てた作物を加工して食するというこの地ならではの生活を楽しんでいます。また、さくらんぼの木を20本植え、数年後の収穫を目指しています。ご主人は、消防団員としても活動され、地域にも馴染んでいます。

最後に紹介するのは、山脇家のやんちゃＢＯＹ柴犬のごん太君２歳です。特定保健指導スレスレのわがままＢｏｄｙで、地区の人たちをたちまち虜にしてしまう人懐こいごん太君。でも、犬同志のお付き合いはちょっと苦手。只今、お友達募集中です。地域に新しい風が吹くっていいですね！

町田 和世

遊谷区
金毘羅神社の御遷宮

遊谷区の歴史ある守護神、金毘羅神社を既存の養蚕神社と併設することになり、麹室（醤油と味噌を作っていた建物）の跡地に写し、２０２１年（令和３年）新しくなりました。「遊谷八百年史抄」を参考にして歴史を振り返ってみました。

１１８０年頃（元暦(げんりゃく)年代）わずか八戸の集落が出来た。これが遊谷の始まりである。１５５０年（弘治年代）大雨のため水害が発生、火事も起こり大火災となった。これを期に水の神、金毘羅様、火の神秋葉様の両神様を合祀する神社を建立。１７３０年頃（享保年代）には、連続二回の火災が村内に起き、神社を村全体が見渡せる高台（現在は杉林になっている）に御遷宮することになった。

そして一昨年、２９０年余りのときを経て二回目の御遷宮が執り行われました。歴史の遺産としても大切に守られ、現在も春と秋には祭礼を行っています。新装になったお社は、雪景色の中に厳かに佇んでいます。

下平美智代

若林区
～自然とのふれあい～

結婚を機に、若林に住み早十数年。それから始まったことが…稲刈りのお手伝いです。街で育った自分には、《田んぼ》を見ることがなく新鮮な思いとは裏腹に、体力に不安を感じる自分がいました。

無我夢中で稲刈り(はぜ掛け)を毎年しています。自然が相手な為、雨が多くてぬかるんでいたり、稲が倒れること、暑さが厳しいことがあります。あとは9月頃から夫さんと険悪に。お互い稲刈りが憂鬱なのでしょう…。

５年前…丁度作業を終えたときに目を奪われた景色、それは、はぜ掛けした田んぼに夕陽が照されて黄金色に輝いて綺麗な光景でした。カメラがなくて残念でしたが、ご褒美を貰えた感じでした。

最近は景色を見る余裕が出てきたので、田んぼと山が見える光景に感謝しつつ、いつまで出来るか分かりませんが、夫さんと健康で頑張ろうと思います。

甲田歩

夜交・大久保区
信里でいちばん小さな集落

夜交・大久保区の戸数は１０軒、人数は１７人、平均年齢は７８歳の高齢化著しい集落です。毎年この年度末になると、来年度の地区役員報告書を提出せよと言われます。教育・公民館部会、地域振興・環境安全部会、社会福祉部会とありますが、当区では区長のみを選出しているため、区長に代理出席するようにと連絡が来ます。その他もっと大変なのは民生委員。白バラ会委員は次は夜交・大久保で、とお願いされ順番役員選出は断りようがなく大変だ。小部落と年寄りをいじめないで。

夜交・大久保区長　小山茂

青池サラダパーク付近からの大久保地域

秋古区

どこも同じでしょうが、秋古も昔は戸数も人口も多く地域が元気でした。私が移り住んできたころは会合も多く夜遅くまで農業の話で盛り上がっていました。今では懐かしく思います。
公民館の写真を見れば秋古も元気だったことがわかりますが昨年は３名がお亡くなりになりました。当時の写真に写ってる子供たちは誰一人秋古にいません。昨年秋古に３０代の孫夫婦が子供２人と転居してきました。宝物です。秋古は２５戸ですが一人暮らしが１１戸で足の不自由な人の家が３戸あります。

七二会方面から見た秋古地区

他の家もみな高齢で、区の平均年齢は７３歳くらいで多くの人が８５歳近くです。そんなわけで地域に協力したくとも皆さん自分のことで精一杯な人ばかりです。
区長を初め区役を頼める人は限られ役員の選考はいつも大変苦労します。消防団も団長一人が秋古在住で、団員は区外に住む出身者が協力してくれています。草刈りなどもだんだん範囲を狭め、出来る人数で最低必要なところに絞って行っています。
老人会、公民館旅行やどんど焼き、お花見、お念仏等もなくなり寂れるばかりです。皆様それなりに頑張っていますが・・・この先どうなることやら？

秋古区長　　山下博巳

村山区

村山地区と聞いて思い出すのは荒神堂さんだと思いますが、今回は、村山の信号から北に少し入った所にある布施神社についてです。布施神社では、山村山区（夜交・大久保・秋古・村山・瀬成・粒良田）の区長さんと村山区の祭典委員の方たちにより、お祭りがおこなわれています。

・二百十日の宵祭り　二百十日の前夜２０時～２２時参拝
・秋の祭典（布施神社例祭）　山村山区の皆様方の健康並びにご多幸と五穀豊穣を祝し、長野市綱島の川合神社宮司様により執り行われます。
・二年参り　１２月３１日　２２：３０～元旦１：００
神社の境内には十六の祠が整然と並んでいます。
布施神社、昔はたくさんの子供たちが遊び、賑やかな声が響いていたそうですが、今はひっそりと静かに山村山を見守ってくれています。

塚田友子

粒良田区

粒良田地区は14件。空き家はなく、少子高齢化は加速していますがみんな元気に暮らしています。区では最近「どんど焼き」がありました。毎年1月上旬に行う恒例行事です。年男年女の方々が最初に火付けをし、古いお札やだるまや正月飾りをお焚き上げしています。最近は、高齢化が進んだこともあり、夜のどんど焼きから昼間のどんど焼きに代わりましたが、そこで今年初めて集落のみなさんが顔を合わせるので、とても楽しみでもあります。高齢化が進んでも、春になれば「待ってました！」とばかりに、畑やたんぼに軽トラをブンブンいわせて出掛けていくんだろうなあと、久々にどんど焼きで元気そうな顔を見てうれしくなりました。

飯島美香

瀬成区

瀬成区氏神神社を建立される

令和４年１０月１６日　晴天に恵まれた中、新しく建立した祠の前で神主によるお魂入れを、来賓始め、建設に携わって頂いた関係者、区民一同参列の中、五穀豊穣、郷中安寧、家内安全、コロナ退散を祭事が開催されました。

お賽銭箱に「まほろば」という文字が記載されています、「まほろば」の意味は、素晴らしい所、住みやすい場所という意味です。
人口減少の中、瀬成区、信里の人口が増える事も祈願です。

各区に神社がありますが、新しく建立に立ち会えた事に幸せを感じます。
是非皆さん立ち寄ってください、四季それぞれの風景が楽しめると思います。

瀬成区長　池田一義

信里警察官駐在所の始まり

＜前回クイズ＞
信里村誕生によって最初に旧有旅村・旧山布施村の境に建設が予定された建物はどれですか。
［①　村役場　　②　小学校　　③　駐在所］

信里地区は、明治２２（1889）年に『市制・町村制』の施行により信里村となり、役場庁舎を立てることになりました。役場は曲がりなりにも連合戸長役場のときから笹鍋の民家（北澤民雄氏宅）を借りて事務はできているので、その前に駐在所建設をという話になりました。
建設場所は信里村の中央が良かろうという話になり、それでは青池の下村あたりということになりました。旧両村の村会議員がお互いに一歩も譲らないこともあり、旧両村の橋となると、旧有旅村の犬石のはずれと、旧山布施村の村山の犀川端になるので、結局、青池の下村に決まり、役場や小学校の位置も同様なことになりそうでした。
その場所に駐在所の土台を据え、建前(たてまえ)（棟上(むねあ)げ）も目前に迫ってきました。ところが、「この決議には不正があるから無効だ」との訴訟(そしょう)が持ち上がったのです。議事法の不徹底などで問題もあったらしく、建設反対に最も急先鋒であった笹鍋の人たちが、血気盛んに建物の土台を取り去ってしまうという事件も起きました。
　裁判沙汰や土台撤去のこともあり、仲裁人が入り、「駐在所は旧両村の境に建設する」ということが議決されました。実際には訴訟は却下されて、裁判にはならなかったのですが、笹鍋ではそのことは隠されていました。
　このような事情で、議決後数年もたった明治２５（1892）年に、ようやく駐在所は建設されました。ただし、費用は地元負担ということで、笹鍋は労力奉仕や資材の供与など、相当な犠牲を払わされたということです。（『信里の百年』昭和４３年発行より）
したがって、前回のクイズの答えは「③」です。

（付記）
１　駐在所制度は、明治２１（1888）年１０月３１日の内務省訓令によって全国的に設置されたもので、当初は民家を借りることが多く、そのうち、村の建物（新築を含む）を借り受けるようになり、その後は県が直接新築するようになったといいます。
２　長年、信里地区の安全・安心を守ってきた駐在所も、青池区など一部の反対がありましたが、組織再編による３駐在所統合という形で令和３（2021）年３月に廃止されました。
現在、建物は取り壊され更地となっています。
３　信里駐在所最後の駐在さんとなった金子成之さんは平成２６（2014）に赴任され、妻の克子さんとともに７年の長きにわたり信里で生活されました。
４　村役場庁舎は明治２５年に小学校本校舎は明治２９年に新たに建設されました。

篠ノ井歴史の会　島田 利男

地域おこし協力隊　活動報告

12月になっても農閑期になることはなく、なんとか積雪前にダイズの刈り取りと搬入をすべて終え、一息つく間もなくヘーゼルナッツの苗木の植え付け。

植え付けがすべて終わったその翌日、圃場（ほじょう）は雪に埋もれました。
本当に間一髪。　まるで、植え付けが終わるのを待っていてくれたかのように。
イタリアのピエモンテから、ようこそ日本へ。　信里の地に根付いていってくれますように。

有害鳥獣対策に関しても、少しずつですが活動しています。
そろそろ罠を撤去しようと思っていた矢先に、「バンビ（子鹿）がかかっているよ」と連絡をいただいたものだから、止め刺しに向かったら、、、
どう見ても子鹿ではなく、立派な成獣の女の子がおとなしく座っていました。

罠にかかるスケジュールは、当然のことながら
まったくこちらの管理下にはないわけで、なぜか
予定のびっちり詰まっている日に限ってかかって
くれるものです。
大急ぎで、搬出、解体、残渣（ざんさ）処理、諸々。　腿肉（ももにく）は土蔵の軒下に吊るして熟成中。
玄関先から丸見えなので、家に訪れる人たちに驚かれやしないかと多少心配でしたが、意外にも、土蔵周辺の他の道具たちと同化して、目につかないらしいです。ひと安心。

木村智佳子

信里地域委員会公式WEBサイト

https://nobusato.net/

信里地域委員会の情報や信里だより、
空き家情報、地域委員会や事務局スケジュールなど様々な情報を発信しています。

スマートフォン・タブレット
からもご覧いただけます。